

# 芦生からの便り 第1回



こんにちは！芦生研究林です。  
これから一年間、芦生研究林の四季や出来事・研究をそれに携わっている者や地元の方々に主軸を置いて、綴っていこうと思います。

…ということで、今回は芦生研究林の大雑把な紹介から。

芦生研究林は、2003年4月、京都大学フィールド科学教育研究センターの発足に伴い「芦生演習林」から「森林ステーション・芦生研究林」となりました。その歴史は、1921年（大正10年）地元の旧知井村の共有林の一部に99年間の地上権を設定したことに始まります。場所は、京都府北東部の山稜地帯に位置するところが、研究林です。

今でも、携帯電話が使えない「貴重？」な場所です。けれども、その研究林の山から、日本海に注ぐ由良川の源の一滴が、生み出されています。

芦生研究林の広さは、東京ディズニーランドが約82個分、すっぽり入る位の大きさです。（正確に言いますと、4185.6ha）気候的には日本海型と太平洋型の移行帯に位置し、地形的な特徴と相まって、気象条件や動植物の生態系も大変ユニークです。

また、ここは暖温帯林と冷温帯林の移行帯のため、植物の種類が極めて多いのも特徴です。

けれども、皆さんも「芦生ツアー」などで、ご存知の方が多いかと思いますが、何と言っても圧巻は、本研究林の90%以上を占めている天然林の存在です。このような森林は西日本では、「稀有」と言っても言い過ぎではありません。

研究林内では、ツキノワグマ、カモシカ、ニホンジカ、ニホンザル、イノシシ、ヤマネ、ムササビ等が生息しています。鳥類は111種が記録され、その他、貴重な爬虫類や両生類、新たに記録された蝶類やトンボ類等も確認されています。

研究林は研究・学生の実習の他、一般市民対象の公開講座、地域の親子対象開放事業、官民団体の研修・見学等、毎年多くの利用者を受入れています。ですから、特に夏場は構内も、子供も“ワーワー、キャーキャー”の声と共に、賑やかになる季節です。

一般市民対象の夏期公開講座は17回を迎え、本研究林の代表的な行事になっています。また、昨年より、春・秋と一般の方を対象に日帰りですが、本研究林の職員だけで“観察会”を開いています。このように、多種多様な要請にも応えられる研究林なのが、職員一同の誇りです。

現在、スタッフは、教員1名、事務職員2名、技術職員9名、非常勤職員2名で、研究林の施設は、構内に事務所・宿泊所・資料館（斧蛇館）・車庫・倉庫・職員宿舎等があります。斧蛇館には、本研究林の沿革、植生・地形や気象の概況、ツキノワグマ・カモシカ等の大型動物の剥製等を展示し、平日のみ公開しています。



芦生研究林の全景



事務所の建物



芦生研究林の位置